

## 【生物】

大阪医大の生物は、地方の国公立大のような基本から標準レベルの問題がその大部分を占めている。そこで攻略は簡単と思われがちなのだが、きちんと得点するのは意外にも難しい。論述力の要求される設問が多く、書けたつもりでも減点箇所によっては点数が残らないからである。

実験問題はきちんと時間をかけて丁寧に読み込んだ上で回答すること。データの提示自体は最小限に抑えられているので、扱いやすいことが多い。尋ねられたテーマに関係するデータやキーワードを選び、それを骨子に少しずつ肉付けし、50～80字程度の文章を作成する練習をしておいたほうがよい。

また伝統的に空欄補充や計算問題も頻出である。しかしこれも典型的なパターン問題が多いので、ここでどれだけ計算ミスなどのケアレスミスを抑えられるかが特に大事なことになる。

今年の予想出題テーマとしては、

浸透圧の意味と計算・減数分裂と配偶子形成・家系図と遺伝・キメラとノックアウト・視覚器・神経伝達物質と受容体・血糖量体温調節とフィードバック・播種日時と花芽形成時期のグラフ問題・個体群の変化に関するシミュレーション・分子進化と分子時計・食物連鎖における生産効率・生物濃縮に関する計算などが狙い目である。論述では食欲に1点を取りに行き、計算やデータ解釈で一気にライバルに差を付けよう！

## 【化学】

大医の化学の特徴は大問4問のうち1問は理論と言えるが、残りの3問は理論、無機、有機が融合されているという点である。理論で気をつけておきたいのは蒸気圧、凝固点降下、化学結合と固体の結晶の性質でこのあたりは入試の時に受験生が手薄になりがちなので再チェックしておきたい。

有機では脂肪族の内容が多く割合を占め、この際に異性体の知識をついて来る可能性が高い。ヒドロキシ酸をチェックしておくとう有効かも知れない。無機では、酸化・還元にかかわる内容（鉄・スズ・クロム・マンガン・硝酸・ハロゲン）あたりが要注意と言えるのではないだろうか。